

## 飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

### 第 366 回 「両忘」の教えの如く！

2010.5.30

「両忘」という言葉をご存知だろうか？

論語にある「能所両忘」から来た言葉らしい。能見、所見 すなわち「見る方」と「見られる方」という二者相対の世界を忘れ去り、「ひとつ」になる。もう少し分かり易く言えば、両忘とは、白か黒かという二元的考えを脱し、物事を二つに分ける考え方を忘れることといえる。生と死、是と非、苦と楽、愛と憎、内と外の両者の対立を忘れ去る。他との比較を忘れ去り、自分と正面から向き合っ、「主客一如」に成りきると言う事である。禅宗の教えで言えば、「良いも悪いも忘れ去ること」という意味で、相対する両極端の事柄について、どちらを強く意識するでもなく平常心とか無我の境地になりなさいってことらしい。

この教えを経営に置き換えてみた。

結果を出す人は、他人と自分を比較しない。では、何と比較しているのだろうか？ その対象は、「昨日の自分」、つまり、「昨日の自分」と「今日の自分」を比較しているのである。継続的に成果を出す人は、このサイクルを常に回しながら日々成長しているのである。対立概念を断ち切ることで、本来の自分の力が発揮でき、これ正に「両忘」といえるかもしれない。

従って、結果を出すための最良の策は、「自分と正直に向き合うこと」ということになる。そして結果を出すためには、プロセスが昨日よりも改善されていなければいけない。日々改善が「良い結果」へつながる。つまり、毎日が真剣勝負ということになる。日々改善もなく、結果が出ないことを人のせいにするのではなく、自分のプロセスを改善することだ。なぜなら、毎日のプロセスの中に成功があるからである。

これから先のためにいま何をしなければいけないか、また何をしてはいけないか。人の上に立つ人は、「あるべき姿」を明確にし、「いま・ここ」を真剣に行動する。また、準備のための準備が上手で、先行管理のための独自の習慣を持ち、愚直に実施している。

必ず「自分との約束」をつくり、着実に実行している。自分との約束を守れない人は、他人との約束も守れっこない。営業の行動予定、仕事の目標、体調管理やダイエットの方法など、何が何でも自分で決めたことは絶対守る。そうすることで、必ず新たな自信が生まれてくる。

「人に勝つより自分に勝て」とは、講道館柔道の創始者『嘉納治五郎』の言葉である。「大事なことは、進歩向上の比較を、他人とするのではなく、過去の自分とすることだ」と...言葉で読み、頭で考えると、たぶんみんな、そう思っているに違いない。

でも人間は弱い。安易で、慣れた、楽な方へと逃げていく。頭では理解し、人にはそう言っているのだが、御身(おんみ)大切、他人に厳しく自分に甘い...が、今の日本人の典型のようになった。

会社の方針、戦略、それを受けて自分で作った自らの目標、でかでかと掲げた貼り紙が、いつの間にか黄ばんで見える。目標は未だ達成しないうちに、できない理由、やらなかった言い訳を、必死に見つけ出している自分の姿に驚愕(きょうがく)する。いやいや、驚愕するならまだいい、惨(みじめ)な自分に気付かず、平然としている日本人が、なるほど多くなった。

古今東西、偉大なる先人たちが語り継がれてきた通り、自分の弱い心に打ち勝つ強さをもつ人が、真に力を発揮できる人なのかもしれない。国民の前で平然と約束を反故(ほご)にする総理大臣、誰一人責任を取らず、言い訳の詭弁と屁理屈を、毎日テレビで見せつけられる子供たちは、喩(たと)えようがない悲劇である。

今こそ心ある日本人よ、「両忘」の教えの如く、自分とまっつぐ向かい合い、過去の自分に勝てるように努力し、進歩しろ！ 人のせいなんぞ、するんじゃねーぞ！...そんな粋(粋)のいい「江戸っ子親父」が、しっかりと叱って欲しい。